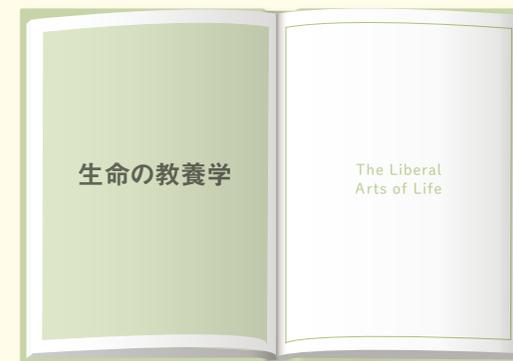


単位認定・少人数ゼミ形式

## 教養研究センター設置科目



いま、最先端の学問は「教養」かもしれない。



慶應義塾大学  
教養研究センター



# 「教養」のすゝめ

大学は専門教育と教養教育の両輪で成り立ちます。

なぜなら、複雑な現実社会の中で専門的知識はそのまま役立つものではないからです。

専門的知識は応用しないと、現実には、はまりません。

応用するために必要なもの。

それが教養です。

さらに専門教育は限られた一分野に徹するから専門。

世の中を生きていくためには専門だけでは偏ります。

そこでも教養は不可欠なのです。

福澤諭吉先生も言っています。

## 「決して字を読むことのみを勤むるに非ず」

『学問のすゝめ』の中の言葉です。書齋で狭い学問をしているだけでは駄目だということです。

社会的・実践的に、からだを動かして学ぶことまで含めた、広い学問の必要性を述べた言葉です。

福澤先生による「教養のすゝめ」と解してよいでしょう。

教養研究センターは慶應義塾における教養教育の力強い担い手です。

様々な授業を設置して、学部のしきりにとらわれない、教養教育の実践に取り組んでいます。

ぜひ、ガイダンスで情報を得て、履修の参考にさせていただければと思います。

### 所長メッセージ

教養研究センター所長 小菅 隼人

## 「星の友情」

新型コロナウイルス感染症流行は、その最も有効な対応策が「分断」であるが故に、大学教育に大きな影響を与えています。学生はキャンパスから引き離され、教師との直接交流を断たれ、学生同士の顔を突き合わせての知的対話は十分にできない状況が続いています。

しかし、それでも、各人が独自に光を發して、お互いを照らし合うことは可能なはずで。

いまこそ、ニーチェの言う「星の友情」を求めようではありませんか。大空にあって、互いに独立して光を發しながら、静寂のうちに奏でられる〈沈黙の音楽〉を、お互いに感じ合う、そして、全体として一つの星座になる関係です。

教養研究センターは、COVID-19 に負けません。この機会を一つのチャンスと捉え、あらん限りの知恵を絞り、学生、教員が分断を乗り越えて、より豊かに交流する学習環境を提供いたします。それが「星の友情」として、将来のみなさんの大きな糧になることと信じています。ぜひ、ガイダンスで情報を得て、授業やイベントに積極的に参加してください。

### 担当教員からのメッセージ

## アカデミック・スキルズII

Academic Skills

レポートと論文の違い。  
プレゼンテーションの仕方を基本から学びます。

論文の書き方、プレゼンテーションの仕方を徹底指導。減多にならない授業です。大学の授業ではレポートを書く機会が増えます。3、4年生になると論文の執筆を求められることもあるでしょう。では、レポートと論文はどう違うのか。さらに内容を口頭で発表するときはどうするか。アカデミック・スキルズはそのスキルをみなさんに伝授します。

法学部教授 片山杜秀

## 生命の教養学

The Liberal Arts of Life

文系・理系の垣根を越えて  
「生命」をめぐって繰り広げられる白熱の議論。

「学際的」という言葉を知っていますか？多様な専門領域を横断しながら、新たな知を生み出していく学問の方法を指す言葉です。ふだんは異なるフィールドの第一線で活躍している人文・社会・自然科学の専門家11名によるこのオムニバス講義で、「生命」をめぐる「学際的な知」の現場をぜひとも体感してください。

商学部准教授 西尾宇広

## 日吉学

Hiyoshi-ology

ここでしか学べません。  
過去から未来を読み解く体験型教育プログラム

「日吉学」の特徴は、他では考えられない顔ぶれと手法と素材が合体すること。多様な受講生と共に探検・体感し、テーブルを囲み、新鮮な発想をぶつけ合い、多彩な教授陣と共に考えます。教材には塾生なら必見の歴史的宝物が続々登場！

法学部教授 大出敦

## 身体知

Learning Through Affective Experience and Active Participation

言葉と体を通して  
全く新しい自分に出会ってみよう。

普段皆さんが読んでいる物語や小説。それを声に出して読んでみたら・・・他者と一緒に議論してみたら・・・絵や歌、体を使って表現してみたら・・・。ふだん私たちが「学び」と思っていることを全く異なる方法で「体感」してみる授業です。

法学部教授 横山千晶

## 身体知・音楽II

Learning Through Affective Experience and Active Participation: Historical Performance Practice of Music

歴史的音楽(器楽・声楽)を、  
当時の演奏習慣に基づき演奏していきます。

音楽は、身体を介し表現され、歴史の中で常に、人間の知的な活動と連携してきました。この授業では、音楽を身体で表現することを通じて、歴史・文化の中の人間の生を体験し、芸術に秘められた人間の生を、文学・歴史・思想等、多角的視点から見つめ直すことを目的としています。

経済学部教授 石井明

## ゲーム学

Game studies

ビデオゲームが提起する諸問題について  
アカデミックな立場から考察をおこないます。

普段は遊びに過ぎないビデオゲームも、巨視的なスケールで見れば今日、多くの産業、文化、技術分野において中心的な位置を占め、また、さまざまな問題を提起しています。ビデオゲームの周辺で現在起こっていることを知り、ゲームに関する諸問題についてアカデミックな考察をしてみませんか？

経済学部教授 新島進

敬称略。肩書きは2022年1月現在

## Guidance

### 2022年度教養研究センター設置科目ガイダンス (オンデマンド配信・要keio.jp認証)

<https://keio.box.com/v/lib-artsguidance2022>

配信期間 2022年4月1日(金)~6日(水)

教養研究センターの設置科目、履修申告の手続き方法や幅広い活動について紹介します。履修希望者は必ずご覧ください。(要keio.jp認証)

※keio.jp以外のGoogleアカウントにログインしているとアクセスできません。一度全てのアカウントからログアウトし、ブラウザを落としてから再度keio.jpにログインし直してください。



# アカデミック・スキルズⅡ

知の基礎を築く



大学の授業では、自ら調べ、書き、発表する能力が求められます。レポートを書く。論文を書く。レポートや論文の内容について、プレゼンテーションする。学年が上がれば上がるほど、そういうことができるか否かが、評価の分かれ道になってゆきます。少人数の授業では特にそうです。

ところが大学では長いあいだ、どうすれば調べて書いて発表できるようになるかについて教えてきませんでした。大学の授業は、経済学でも政治学でも法学でも文学でも物理学でも化学でも、講座名にかなう専門的内容をきちんと教えます。けれどたとえば、学期末に提出の求められるレポートや論文の作り方のことになると、たいていは自助努力に任せられます。

もちろん、高校までの経験や大学に入ってからの見様見真似で、いきなり出来てしまう人はいます。しかし、かなり多くの学生が戸惑い躓いてしまうのもまた事実なのです。

そこで慶應義塾大学に生まれた授業が、教養研究センターの開講するアカデミック・スキルズです。この授業は、レポートや論文を執筆するときの調べ方、書き方、そして発表の仕方について、そのスキルを学ぶことを主眼とします。なるべく早いうちにそういう仕方を学んでおくことは、どのような学問を専攻するにせよ、必ず役に立ちます。近年では多くの大学で同内容の授業が増えてきていますが、慶應のアカデミック・スキルズはこの道の老舗です。

といっても、調べ方、書き方、話し方に、絶対的に決まったスキルはありません。マニュアル本のようにききません。最後は人それぞれです。とはいえ、多くの場合通用する、能率的で効果的なやり方というものはあるのです。そのことを少人数形式でじっくり学んでみませんか。

※授業の性質上、春学期・秋学期を通しての履修を推奨します。

## 授業の特長

### 学部共通科目・少人数制・複数教員制

さまざまな学部の学生が少人数で一緒に学びます。1クラスに専門分野の相異なる複数の教員がつかます。

### コンペティションの開催と論文集の作成

授業のまとめとして、各クラスから優秀な論文とプレゼンターを選出し、コンペティション開催を予定しています。また、履修者の提出論文を掲載する論文集も作成されます。



佐藤望(編著)・湯川武・横山千晶・近藤明彦  
「アカデミック・スキルズ  
大学生のための知的技法入門 第3版」  
(慶應義塾大学出版会、2020)

## 授業紹介

論文作成とプレゼンテーションの仕方を系統立てて学んでゆきます。個人で完成し、内容についてのプレゼンテーションを行います。論文のテーマの選択については自主性が尊重されます。

## 2022年度 アカデミック・スキルズⅡ 講師紹介

クラス・学期・時限	担当教員
水曜クラス (春・秋) 5限	片山杜秀 (法学部教授) 玉木寛輝 (法学部講師(非常勤))
木曜クラス (春・秋) 5限	小林拓也 (理工学部専任講師) 石川学 (商学部准教授) 見上公一 (理工学部専任講師)
金曜クラス (春・秋) 5限	中野芳彦 (商学部専任講師) 諸橋英一 (法学部講師(非常勤))

敬称略。肩書きは2022年1月現在

## シラバス(春学期)の基本イメージ例

(実際の授業は各担当教員の創意工夫に基づき行います)

●グループ論文を作成する場合

回	授業内容
1	履修者を選考します
2	グループ分けとみんなの自己紹介をします ミニ講義「問題意識の見つけ方」
3	小論文を書いてみよう ミニ講義「論文とは何か」
4	グループ論文のテーマについて議論しよう ミニ講義「グループ論文の作り方」
5	メディアセンターで資料の探し方を学ぼう
6	そろそろグループ論文のテーマを決めよう
7	グループ論文の章立てを考えよう ミニ講義「参考文献表の作り方」
8	各章の概要を決めよう ミニ講義「プレゼンテーションの仕方」
9	グループ論文の骨子をみんなにプレゼンテーションしよう
10~11	論文の作成と指導に集中します
12~13	グループ論文の深まった内容を改めてプレゼンテーションしよう
14	グループ論文を最終完成します

## 論文コンペティション入賞作 (過去の例より)

法学部2年 タレントの自殺報道による自殺誘発と予防 ー日本国内の新聞分析を通じてー

法学部2年 トランスジェンダーのトイレ利用に関する問題 ー及び性的指向・性自認に基づく差別禁止に向けた法整備への展望ー

## プレゼンテーション・コンペティション入賞作 (過去の例より)

法学部2年 N高等学校と伊計島の未来

商学部2年 女性による女性運動から分析する日韓女性アイドルグループ

## 学生の声(2019年度受講生)

大学生になって初めの年、何か一歩踏み出した  
と思いました。特に、私は論文の書き方を知ら  
ず、人前で話すことも苦手だったので、少  
しでも成長できたらと思い、この講座を受講することに  
しました。

講座を通じて、疑問を言葉にする難しさを知  
るとともに、それを友人や先生方に相談できるよ  
うになりました。  
1年生にとって、これからどんどん増えてくるで  
あらう論文課題に、時間をかけてじっくり取り組め  
ることは、きっと良い経験になると思います。

知識を用いて、説得力のある議論をする方法  
を知りたかったことと、自分でテーマを設定して、  
探求するという経験を積みたかったので、受講  
を決めました。  
少人数制なので先生と生徒の距離が近く、個々  
人に適切な助言をしていただき、研究や論文に  
関する些細な質問も気軽に行えました。  
プレゼンや文章の作り方が以前よりも上達したと  
ともに、様々な資料を集めて、読解し、それらを利用  
するという工程がわかり、自分の意見を構築し  
ていくことに慣れることができたと思います。

大学生になるからには論文の書き方を知って  
いないといけなさと感じ、教養を身につけられ  
るということもあって、この講座を選びました。  
授業を通じて、論文と作文の違いがきちんと  
理解でき、客観的かつ独自性を持つというこ  
とがどういうことなのかを理解し、身につける  
ことができました。  
まだまだ甘いけれど、プレゼンテーションをわ  
かりやすくつくる術もわかりました。  
大変ですがすごく勉強になり、論文を書き終  
えたあとの達成感はずいぶんです。

法学部1年

理工学部1年

薬学部1年

# 身体知

## 創造的コミュニケーションと言語力



私たちはもちろん体を通して生きている。それは当然のことですが、あらためてこの「身体」に注目した全く新しい学びの在り方を、自分たちで探っていくワークショップ形式の授業です。鑑賞する対象の芸術作品を他者とともに議論したり、身体ワークショップを通して解釈したりしてみると、どんな新しいことが見えてくるだろう。そこから自分たち自身が創作者になってみたらどうだろう。創作したものを他者はどう見るだろう。そんな経験をワークショップを通して、異なる世代とともに味わうことが「身体知」授業の醍醐味です。夏季休校期間中の1週間を使って、集中的に通信教育課程の学生と通学生がともに活動するのもこのクラスの特徴。「学び」、「仲間」との新しい出会いのみならず、新しい自分との出会いが待っています。



2020年度の題材をとったジョー・ミノの短編集



**授業の特長**

- 全く新しい学びの体験**  
座学ではない、頭も体も総動員する授業です。
- 異なる世代が集う授業**  
通信教育課程の学生と通学生とが世代を超えて、学ぶ場を共有します。
- 夏期集中コース**  
夏季休校期間中の1週間を使った集中コースです。



### 授業紹介

言葉に命を吹き込んでみる。



通学課程と通信教育課程の学生がともに学ぶ場です。いくつかの短編小説を「読む」・「声に出す」・「作品について語る」ことを通して、言葉が織りなす様々な意味を味わってみよう。自分がそこから読み解くことが他者とどう異なるのか。声というものを通して文学作品を読むと、どう自分の解釈が異なってくるのか。直に体験してみてください。その後、様々な身体ワークショップを取り混ぜながら、創作へと向かいます。他者の話を「聴く」・「からだで表現する」・「言葉で表現する」といういくつかの段階を経て、そこでの体験をもとに、言語や身体を使った新しい創作表現へとつなげます。性別や年代が異なるクラス環境だからこそ可能になる授業内容を展開していきたいと思っています。最終的に成果を一般に公開するミニ公演を開催し、皆さんの作品を他者とシェアします。  
※公演等、新型コロナウイルス感染状況によって中止・延期となる可能性があります。

### 近年のテーマ

#### 2020年度 「歴史の中の個人」

2020年度の授業は「歴史の中の個人」をテーマに、大きな歴史の中の個人の存在、あるいは個人を通して見えてくる歴史をめぐる作品を読み解き、そこから絵画や音楽など異なる表現ツールを使って自分の解釈を他者とシェアしました。扱った作品は、E. E. カミングスの詩、[in Just-]、朝吹亮二氏の未発表の詩「絵本のための断片」、そしてジョー・ミノの短編「さえずる高麗鶯だったあの子」の3つです。2020年度は新型コロナウイルス感染症のためにオンラインでの開催となりましたが、画面上でも密なディスカッションが可能となり、最後のオンライン発表会も鑑賞者を招待しての開催が可能となりました。内容は、絵画や音楽、ZOOM上のラップなど、さまざまな表現形式と工夫を凝らしての創作となりました。

#### 2021年度 「心象風景」

通信教育課程がオンラインとなったために、2021年度は通学生のみでの開催となりました。今回取り上げたのは3つの短編、クリスティー・ローガンの「光を食すもの」、ジェニー・ホロウェルの「あなたを含めて何もかも歴史」、スペンサー・ホルストの「輝く静寂」です。新型コロナウイルスによって密な身体接触ができなかったものの、気を付けながら、ブラインドウォーク、呼吸を感じるペアワークなどの身体ワークショップを行い、それぞれの作品を絵画、演劇、ダンスの要素を取り入れながら読み解きました。またどの作品も絵画的な表現が特徴だったので、自分の中にある心象風景、実際にいま目にしている風景、そして1週間が終わった時に見ている、あるいはこれから見えるであろう風景をそれぞれ授業の中で創作として織り込みました。少人数ながら、パンデミックの時代にしかない授業が展開されました。

※2021年度「身体知」は法学部設置科目として開講しました。2022年度は教養研究センター設置科目として開講します。

### 学生の声(2019年度受講生)

予想通りでないことばかりでしたが、期待通りの授業でした。意味が掴めないまま始まったワークショップも、進めるうちに納得がいく瞬間がありました。その「納得」が私は欲しかったのだと思います。やっているとうちに理屈が追いついてくる感覚が面白く、「これも何かに繋がるぞ」とわくわくしていました。心の内で言葉を握るばかりで外に放つ方法を知らない私たちに、この授業はいききっかけをくれると思います。

この授業で最も成長できたのは「自らを表現すること」です。声と表情、さらに身体全体を使い今の自分を表現するといった体験は初めてで、他者に自分を表現するための工夫について深く考えることができるようになりました。「読む」「歌う」「演技する」「描く」「創作する」といった様々な方法で表現するため今まで知らなかった自分にも気づけます。他の人を演じ、それを大勢の方に見てもらおうという貴重な体験を自分でやりきった時は、本当に嬉しかったです。

授業を通じて、他人と関わることは何ら特別なことではなく、理由が必要なことでなく、自分自身と向き合う事と同じだと思うようになりました。また自分自身との向き合い方も変わりました。自分とはこういう人だ。こういうことが得意で、こういうことは苦手だ、などと考えることは、自分の可能性を制限し、新たな自己の発見の妨げであると気付くことができました。人が何かを学ぶということとは、本来これほどに楽しいことなのだと思われさせられました。

文学部1年

理工学部2年

経済学部2年

# 生命の教養学

## 記憶



2019年7月5日 石川学氏

この授業は「生命とは何か」「生きるとはどういうことなのか」という問いから始まる知的探究への誘いです。「生命」については生物学をはじめ、主に自然科学に属する諸分野が「生命科学」の枠組みで研究を進めていますが、それだけではありません。哲学・文学・歴史学・文化人類学などの人文学、経済学や政治学といった社会科学もまた、それぞれ異なる角度から「生命」を問い続けているのです。もとより一面的には捉えがたいこのような対象にアプローチするうえで、必要なものとは何でしょうか。それは、特定の学問領域に偏ることなく広く思考の素材を追い求め、各領域の研究成果には十分な敬意を払いつつも、その雑多な素材を元手として、新たな知を創り出そうとする探求の姿勢にほかなりません。ときに「教養」とも呼ばれるそのような態度を涵養する場、それがこの「生命の教養学」なのです。

西尾宇広(編)「生命の経済 生命の教養学16」(慶應義塾大学出版会、2020)



荒金直人(編)「組織としての生命 生命の教養学15」(慶應義塾大学出版会、2019)

### 授業の特長

多彩な分野を代表する講師たちによって  
おこなわれるオムニバス授業

自然科学、社会科学、人文学など、多彩な分野のそれぞれ最先端で活躍している講師が週替わりで登壇し、濃厚な講義をおこないます。各講義では原則として1時間程度の講義のあと、自由な質疑の時間が設けられます。学期の最初と最後には、コーディネーターによるオリエンテーションと総括がおこなわれます。



2014年7月4日 長沖暁子氏

### 授業紹介

#### 「記憶」から紐解く「生命」の歴史

2022年度のテーマは「記憶」です。このテーマをめぐるのは、これまで文理の垣根を越えた複数の学問分野において活発な議論がおこなわれてきました。ヒトを含むさまざまな生物が、個体ないし集団として、生理学的・心理学的な記憶のメカニズムを持っていることからわかるように、記憶は生命の重要な構成要素のひとつをなしていますが、それだけではありません。わたしたちの生活は、記憶を管理するためにみずから創り出した社会制度(法律、医療)やメディア環境(博物館、アーカイブ、ビッグデータ)、そしてそこから紡ぎ出される「歴史」と日々増殖する膨大な「情報」によって、大きく制約されています。記憶は人間の社会にとって、その不可欠な基盤となっているのです。このように記憶とは、生命の歴史そのものを規定する生物学的条件であるとともに、わたしたちの生活と生存を左右する重大な文化的要素でもあります。本年度はこの「記憶」というキーワードを手がかりに、生物学、神経科学、心理学、情報倫理、歴史学、パフォーマンス研究、文学、哲学といった諸分野から、「生命」の深層に迫りたいと思います。



2018年4月17日 堀田耕司氏

#### 2022年度「生命の教養学」出講講師

- 身近なサカナの学習と記憶  
高橋宏司(京都大学フィールド科学教育研究センター 舞鶴水産実験所 助教)
  - 人間の体内に「遺伝子の記憶」は眠っているか?  
有川智己(慶應義塾大学 経済学部 教授)
  - 分子のふるまいから読み解く記憶のしくみ  
坂内博子(早稲田大学 先進理工学部 教授)
  - 遺伝情報の記録と記憶  
伊藤昭博(東京薬科大学 生命科学部 教授)
  - 認知症と記憶  
佐藤真一(大阪大学大学院 人間科学研究科 教授)
  - 40億年の来歴と革新技术  
河島茂生(青山学院大学 コミュニティ人間科学部 准教授)
  - 生きるための記憶:人間の記憶の使われ方  
伊東裕司(京都女子大学 発達教育学部 教授)
  - ダンサーの記憶、アーカイブの記憶  
中島那奈子(ダンス研究、ダンスドラマトゥルク)
  - 戦後ドイツの「想起の文化」とカウンターモニュメント  
安川晴基(名古屋大学 大学院人文学研究科 准教授)
  - 記憶と喪失 -ブルースト『失われた時を求めて』読解-  
福田桃子(慶應義塾大学 経済学部 准教授)
  - 生の哲学から見た記憶の哲学  
村山達也(東北大学 大学院文学研究科・文学部 准教授)
- コーディネーター:西尾宇広(慶應義塾大学 商学部 准教授)

敬称略。肩書きは2022年1月現在  
※講師、タイトルは変更となる可能性があります。

#### 過去の開催一覧

2019年度 ● 「生命の経済」 2018年度 ● 「組織としての生命」 2017年度 ● 「感染」 2016年度 ● 「飼う」

#### 学生の声(2019年度受講生)

「大学らしい」「学際的な知」を体感できる講義です。  
新しい興味がこの授業で生まれるかもしれません。

理工学部1年

理工学部生として大学に入り、情報系の学科に進むつもりではありませんでしたが、哲学や文学にも興味があったので、オムニバス形式の講義に魅力を感じました。大学に入りたての自分にとって、一つのテーマを軸に様々な学問の姿を見て回れるというのは、大変刺激的な場のように思えたからです。普段目にとまらない分野だけでなく、好みの分野であっても、ふつうでは出会えないような専門性を持つ先生方のお話を聞けるというのは、大変貴重なものだとも感じました。授業を通して、興味を持てる分野も新しく増えたと思います。特に、文学・思想の回と歴史研究の回は印象的で、新たな知見・興味が生まれる契機になったように思えます。自分が今後専門とする分野とはかけ離れていますが、全く新しい興味を見つけ出せたこと自体が、僕にとっての大きな収穫です。一つ一つの内容の密度がとても高いこの講義を、是非、好奇心を持って履修してみてください。

# 身体知・音楽Ⅱ

—古楽器を通じた歴史的音楽実践—  
—合唱音楽を通じた歴史的音楽実践—



写真提供：(公財)横浜市芸術文化振興財団

音楽を通じて歴史・文化の中の人間の生を体験し、芸術に秘められた人間の生を、文学・歴史・思想等、多角的視点から理論的に見つめ直します。音楽演奏の実践体験によって、身体を通じた歴史・文化・言語の総合的な学習を行います。

器楽・声楽それぞれ歴史的音楽作品の演奏実践を行い、耳と感性知識、身体を結びつけ、それによって身体を媒体として継承される歴史・文化・言語の連関を実際の体験によって学びます。学期末に公開演奏会を行い、学内・地域に開かれたかたちで成果を披露します。

## 授業の特長

器楽アンサンブルと、声楽アンサンブルの2つの部門に分かれて行われます。

### 器楽アンサンブル部門

バロック・ヴァイオリンやチェンバロなど、一般的に古楽器と呼ばれているバロック時代の楽器を用いて、17世紀および18世紀の西洋音楽を実践的に学んでいくというのがこの授業の最大の特徴です。

### 声楽アンサンブル部門

合唱音楽の原点とも言える、ルネッサンスおよびバロック期の合唱音楽を主に取り上げます。これを実践的に探究してだけでなく、学問的な観点からも合唱音楽の本質を考察していきます。音楽の発展の中で、人の声が担った役割は大きく、音楽の歴史に与えた影響は計り知れないところがあることを確認していきます。



## 授業紹介

### 器楽アンサンブル部門

バロック・ヴァイオリンやチェンバロの他に、バロック・ヴィオラ、バロック・チェロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、バロック・オーボエ、リコーダー、フラウト・トラヴェルソ、バロック・ファゴットなどの、バロック時代に使われていた楽器を用いて、当時書かれた、トリオソナタなどの室内楽編成のための作品と、より大きめなアンサンブルであるバロック・オーケストラ(20人程度)のために書かれた音楽作品を取り上げ、バロック時代の音楽作品について深く理解していきます。実践を通じ、17・18世紀の作曲家たちが何を演奏者に、そして聴衆に求めていたのかということや、17・18世紀の器楽作品には、どのような音楽的メッセージが込められているのかということなどを、現代ではなく、当時使われていた楽器を用いることで探求していきます。なお、使用ピッチはa=415となります。一年を通じて、2回ほどの成果発表演奏会を、協生館藤原洋記念ホールで行う予定です。

### 声楽アンサンブル部門

音を記号化し記録するという行為、つまり楽譜の発展は、多声音楽と共に歩んできたと言っても過言ではありません。そのくらい、合唱音楽が音楽の歴史の中で重要な役割を担っていました。ルネッサンスの時代が終わるまでには、4声、5声、6声またはそれ以上の声部のために、複雑な作曲技法が用いられて数多くの声楽作品が書かれました。そのような時代では、芸術性を高めることが神への距離を縮めるとも考えられていました。結果、現代までに残されているルネッサンス期の合唱曲の大半は、宗教音楽の分野に属する作品です。しかしながら、バロックの時代の幕明け頃(1600年前後)には、世俗的な音楽にも宗教作品で培われた、もしくは新たに生まれた作曲技法が用いられるようになっていき、声のための音楽の奥行きが広がっていきます。このような状況を合唱音楽を実践的に取り組むことを通じて、学んでいきます。



この授業は、日吉音楽学研究室と連携して行っています。

詳しくはホームページ

<http://www.musicology.hc.keio.ac.jp/>をご覧ください。



## 学生の声(2015年度受講生)

ホールで発表する体験も貴重でした。古楽器から学んだ音そのものの美しさ。

文学部3年

受講を決めたのは、音楽を実際に演奏することで作品の特徴を知りその魅力を感じることができると考えたからです。古楽アンサンブルの授業を選択していますが、何よりも第一の魅力は古楽器を用いて演奏できるということ。そして室内楽、あるいはオーケストラの曲を演奏する中で先生から曲の理解、表現方法について適切に指導して頂けることが魅力です。そして何より、実際に自分たちも、毎年2回、ホールで発表するという貴重な機会の中で、様々な学年の受講生とともに演奏をする貴重な場で、良い音楽仲間に出会えるのも大切な経験になりました。この講義を通じて、古楽器の演奏を通じて音の純度、音そのものの美しさについて気づくことができましたし、発表の場が多くコンサートにも多少場馴れすることができるようになり、集団で演奏する上で必要なコミュニケーションを意識しながら楽しめるようになったのが成長を実感するポイントです。

# 日吉学

## 景観篇



日吉キャンパスには広大かつ豊かな自然や歴史環境があります。縄文、弥生、古墳時代の遺跡や1200種を超える生物や植物が生息する森、アジア太平洋戦争末期の帝国海軍の秘密基地や建築史上重要な建造物。福澤先生は『学問のすゝめ』で、「事物の観察」が学問の第一歩と語っています。「日吉学」では観察とフィールドワークを介して体感し、単なる知識の蓄積にとどまらず、生きた知へ発展させることをめざしています。これからの社会には、文系理系にとらわれず多面的視点から生み出される創造的な発想が求められるでしょう。つい見過ごしがちな身近なことから現在の我々を取り巻く問題とのつながりに触れることで、広い視野と深い洞察力の重要性に気づき、グループで課題に取り組むことで、問題の発見・解決における個人の主体性と他者との対話・協働の大切さを学びます。



コーエーの襟川陽一社長から盾を授与された受賞者

### 授業の特長

慶應義塾唯一の授業 慶應のお宝に触れ学びます。

多彩な講師陣と幅広い受講者が魅力

対象は慶應義塾に在籍する高校生(オブザーバー)から大学院生まで。年齢の異なる参加者が混在するグループワークで、多様な発想からの刺激、異なる意見の調整方法を学ぶことができます。

多様な「熱い」学びのかたち

講義とフィールドワーク・体験と討論。最終プレゼンテーションには予行演習で教員の指導、本番では学生と教員による熱い合評会。各自レポートの書き方も学べます。

日吉学修了証がもらえる  
公開発表会も予定されています。



### 授業紹介

こんな授業があったのか！  
キャンパスを通して自分たちの過去・現在・未来を考える

みなさんは、ふだん何気なく過ごしている日吉キャンパスがどんなところか、改めて考えてみたことはありますか。ちょっと気にして目を向けると、いろいろな発見があります。日吉キャンパスは、弥生時代には一大集落でしたし、古墳や中世の城までありました。そして1934年に慶應義塾がこの地にキャンパスを作ります。こうしたものが地層のように積み重なっているのではなく、実はそこかしこに露呈しているのが日吉キャンパスです。

今年度の日吉学は、「景観篇」と題し、私たちの先輩がどういふ思いで日吉キャンパスを開設し、どういふ形でそれを実現したかを第一校舎や第二校舎から探ることからはじめ、日吉の商店街の特徴的な放射状の街並みがどうやって生まれたのか、記念館の後ろに広がる広大な蟻谷を中心とした自然がどのように形成されてきたのかということを実際に歩き、実感し、考えてもらいます。過去から現在までの日吉を踏査することで、私たちの未来に引き継ぐべきもの、解決しなければならないものなどを発見し、深く考える機会にしたいと思います。

前半の7回で課題発見のための学習とフィールドワークを行い、後半7回で各自が発見した課題を解決するための資料・情報の収集や整理、理解を深めるための議論を行います。最後に各自、プレゼンテーションを行い、それを踏まえてレポートにまとめて提出してもらいます。



### 2022年度 講師紹介

#### ■ 安藤広道 (文学部教授)

縄文から戦争遺跡まで幅広く専門とする  
慶應のインディアナ・ジョーンズ? 考古学者。

#### ■ 都倉武之 (福澤研究センター准教授)

慶應義塾のことなら何でもお尋ねあれ、  
即座に! 詳しく! 解説可能な歴史学者。

#### ■ 福山欣司 (経済学部教授)

「慶應の森」を歩き、愛する森の守りびと。本当はカエルが専門の生物学者。

#### ■ 不破有理 (経済学部教授)

日吉のマドンナ。なぜかアーサー王伝説が専門の英文学者。

#### ■ 大出敦 (法学部教授)

アカデミック・スキルズ教育のプロ。本当はボール・クローデルが専門の仏文学者。

#### ■ 阿久澤武史 (高等学校教諭)

日吉台地下壕保存の会の会長にして  
日吉の建築探偵・塾高の校舎をこよなく愛する国語の先生

#### ■ 杵島正洋 (高等学校教諭)

ハレー彗星に魅惑され天文学者になるはずが、地学学者に。  
地形や地層や岩石のわずかな痕跡から、過去の出来事を読み取る名探偵。

#### ■ 太田弘 (教養研究センター講師)

名探偵コナン推理ファイル『地図の謎』の監修者で地図教育も専門。  
マップコミュニケーターの異名をもつ地図学者。

敬称略。所属・職位は2022年1月現在

【授業の形式】春学期・火曜5限 知識と体験を自由な発想で味付けをして、熱く冷静に考察する、ユニークな授業



### 学生の声(2021年度受講生)

#### 大学生でよかったと思える場

日吉学の魅力の一つは、先生方と生徒の距離の近さにあります。知的欲求を満たすことができ、大学生として勉学に励むことの楽しさを実感することができます。また、生徒間の絆も深く、講義後も議論をしつづけたのは非常に良い思い出です。皆さんもぜひ受講してみてください。

法学部2年

#### 探求意欲が掻き立てられました

日吉学を受講したことは、私の大学生活によって非常に有意義な経験でした。1つのテーマを文理問わない様々な切り口から検討する授業を受けると、自ずと探究意欲が掻き立てられます。教授の学びに対する愛をひしひしと感じることで、自分の新たな関心分野に気づくことができるかもしれません。大学での学びに対して不安を感じている新入生にこそぜひ受講してほしいです!

法学部1年

#### 日吉で学ぶ意味を再認識する授業

日吉学の意味とは日吉の歴史的背景に触れさらに日吉のことを好きになる授業だ。壮絶な過去を乗り越え今に至る時空の連続性を見逃すわけにはいかない。学部、学年を超えた仲間や教授との出会いは我々に多くの視点をもたらし強く感じている。時間や立場をも忘れ議論に熱中できる。そこには慶應義塾が掲げる半学半教の場が待っていることだろう。

経済学部1年

#### さまざまな塾生が集う学びが体験できます!

日吉学はさまざまな学部・学年の学生が集まり、フィールドワークを通して自分の興味のある分野を研究するという学びができる場です。私は日吉学を受講したことで地下壕を見学するという貴重な経験をし、自分の興味を深めてまとめていくという大学で求められる学びを知ることができました。一歩深い学びを体験したいと考えている学生には日吉学を受講を強くお勧めします。

文学部1年

# ゲーム学

## ビデオゲームについて学ぶ、そして考える



みなさんのなかにも平素、コンピュータゲーム、ビデオゲーム、ゲームアプリに親しんでいる人は多いでしょう。それは遊びや息抜きの日々かもしれませんが、巨視的なスケールで見ればゲームは今日、多くの産業、文化、技術分野において中心的な位置を占め、また、さまざまな問題を提起しています。たとえば桁外れのエンターテインメント市場と化した中国と日本のIP(知的財産)の関係。仮想現実技術などの高度なテクノロジーがいかに最新ゲームに応用されているか。あるいはゲーム依存が社会問題化する一方、物語の伝播媒体として、これまで本や映画が担っていた役割を今ではゲームが果たしているともいえます。ではそうした旧来のメディアとゲームとの違いはなんでしょう？ つまりゲームには学問をする余地があります。普段は遊び、消費するだけのゲームかもしれませんが、そこから一歩踏みこみ、ゲームの周辺で現在起こっていることを知り、ゲームの諸問題についてアカデミックな考察をしてみませんか？



### 授業の特長

#### ビデオゲームをアカデミックに考察する

ビデオゲームが提起する諸問題についてアカデミックな立場から考察をおこないます。個々のタイトルについてのゲーム批評とは異なり、学際的な立場からゲームの現状や、ゲームとはなにかを考えるためのヒントを提供します。

### 授業紹介

ビデオゲームをめぐる多岐にわたるテーマを、産業、文化、技術といった分野の専門家とともに学びます。慶應義塾教員、他大教員に加え、ゲーム業界の最前線にいる方にも講師として登壇していただきます。1時間程度の講義のあと質疑応答をおこない、履修者にはリアクションペーパーの提出が課されます。感染状況が悪化しない限り、授業は対面でおこないます。



### 昨年度(2021年度)実績 実験授業「ゲーム学」講師紹介

- ゲームとは何か？  
井上明人(立命館大学 映像学部 専任講師)
  - なぜゲームに依存するのか  
藤田博史(医療法人ユーロクリニック 理事長・精神分析医)
  - ミクになり、ミクを演じる、ちょっと楽しい画像解析技術  
満倉靖恵(慶應義塾大学 理工学部 教授)
  - アニメ産業 20年ぶりの地殻変動とゲーム産業  
平澤直(アーチ株式会社 代表取締役)
  - 中国巨大市場への挑戦  
大里雄二(日中エンタメプロデューサー)  
コーディネーター:新島進(慶應義塾大学 経済学部 教授)
- 敬称略。肩書は2022年1月現在

### 2022年度「ゲーム学」講師紹介

- 社会を考えるためのゲーム  
井上明人(立命館大学 映像学部 専任講師)
  - 脳の学習機構とゲーミフィケーション  
牛場潤一(慶應義塾大学 理工学部 准教授)
  - 特別講義  
襟川陽一(株式会社コーエーテクモホールディングス 代表取締役社長)
  - 中国巨大市場への挑戦  
大里雄二(日中エンタメプロデューサー)
  - 日本のゲーム産業  
小山友介(芝浦工業大学 システム理工学部 教授)
  - アニメ産業 20年ぶりの地殻変動とゲーム産業  
平澤直(アーチ株式会社 代表取締役)
  - ゲームとしての人生 — その精神分析的構造  
藤田博史(医療法人ユーロクリニック理事長・精神分析医)
  - ゲームとアニメのメディアミックス  
三原龍太郎(慶應義塾大学 経済学部 准教授)
  - ミクになり、ミクを演じる、ちょっと楽しい画像解析技術  
満倉靖恵(慶應義塾大学 理工学部 教授)
  - バーチャルリアリティの進化、拡張するゲーム体験  
南澤孝太(慶應義塾大学 大学院 メディアデザイン研究科 教授)
  - 数値で見る「三国志」のリアリズム ~ 序列化されるキャラクター ~  
吉永壮介(慶應義塾大学 文学部 准教授)
  - フランスにおけるビデオゲーム  
ロラン・ローベル(慶應義塾大学 商学部 訪問講師)
  - ゲームと文学、テキストと身体性  
新島進(慶應義塾大学 経済学部 教授)  
コーディネーター:新島進(慶應義塾大学 経済学部 教授)
- 敬称略。肩書は2022年1月現在  
※講師、タイトルは変更となる可能性があります。

### 学生の声(2021年度受講生)

#### ゲーム業界の様々な知見を知ることができます

ゲームを軸として様々な分野の知見を得られたことが非常に魅力的でした。普段プレイするだけのゲームをいつもとは違った視点で見ると、ゲームには色々な可能性があるのだと気付くことが出来ました。また、ゲームは医学や工学など様々な分野から学ぶことが可能ですが、そのような分野を専攻していない学生でも理解出来る授業です。

総合政策学部2年

#### 将来の進路についても考えさせられました

どの講義の回もとても面白く各業界の専門家の先生から貴重なお話を伺うことができました。将来、アニメ関係の仕事につきたいと考えていたので、「アニメ産業 20年ぶりの地殻変動とゲーム産業」の講義は本当に参考になりました。

環境情報学部2年

# Information

● 庄内セミナー 『庄内に学ぶ「生命」』 <https://lib-arts.hc.keio.ac.jp/shonai/>



慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパス(TTCK)がある山形県鶴岡市を拠点にして開催している、生命をテーマにした教養セミナーです。対話と議論を中心に据えつつ、専門家や地元の方々のお話と体験・体感型プログラムを組み合わせた4日間、自然豊かな庄内の地で学部生・大学院生が一緒になって精一杯「生命」について考え、語り、体感します。即身仏拝観、修験体験、先端生命科学研究所ラボ見学など、過去・現在・未来が体の中を突き抜ける「学び」の場に立ち会ってください。(実施方法につきましては慎重に検討し、周知いたします。)

## ● 情報の教養学

情報に関わる技術は年々進化しています。しかし、それが世間一般に広く浸透するためには、何らかのきっかけが必要になることが多いです。例えば、2020年、2021年は、新型コロナウイルス感染症がきっかけで、オンライン会議システムが広く使われるようになりました。「情報」は技術だけではなく、様々な事柄が相互作用し、その成否につながります。また、本来良いと思われることであっても、利用者の使いみち次第では悪い結果になりかねません。このようなことを理解するために、2022年度の「情報の教養学」は、情報に関わる様々な話題を一流の講師に講演いただきます。

■2021年度講演動画

**30分でマスターする著作権**  
(福井健策)



福井健策氏



伊藤公平氏

■2021年度講演

**「塾生としての理想の追求」**  
(慶應義塾長 伊藤公平)



岩波敦子氏



杉浦孔明氏

**「歴史学の情報戦略」**  
(理工学部教授 岩波敦子)

**「機械知能のグランドチャレンジ」**  
(理工学部 准教授 杉浦孔明)

## ● 実験授業 エンターテインメントビジネス論

ゲームやアニメなどが好きで業界の構造に興味を持っている学生や、卒業後はクリエイティブ産業で働きたいと思っている学生は多いと思います。本講義は「アニメ・ゲームIPの作り方」と題して、法学・経済学・商学・文学・理工学など様々な分野に跨る、コンテンツビジネス・クリエイティブ産業に様々なストラテジーについて学びます。受講者は、ゲームとアニメを中心としたコンテンツビジネスの様々な仕組みを体系的に学習し、商品を生み出す分析方法を検討する体験を行うことで、クリエイティブ産業の様々な分野にも応用可能な知識と、批判的な思考を身につけます。

※2022年度は実験に行う授業のため、卒業単位に認定されません。

## ● 学習相談

アカデミック・スキルの修了生を中心とした学生相談員が、学習に関するさまざまな相談を受け付けています。お気軽にどうぞ!

期間: 学期中の平日(Webサイト参照)  
場所: 図書館1Fスタディサポートまたはオンライン  
[https://libguides.lib.keio.ac.jp/hys\\_studyadvice](https://libguides.lib.keio.ac.jp/hys_studyadvice)



## ● 寄附講座

教養研究センターに提供される寄附金を基に運営されている講座です。この支援によって実験的な授業を展開し、質の高い授業が正規化され、毎年着実に成果を重ねています。

※詳細はポスター、web等でご確認ください。 <https://lib-arts.hc.keio.ac.jp/>



# Publications

教養研究センターで行われている研究・教育・交流活動は、各種刊行物やウェブサイトにて発信しています。



## ● 教養研究センター選書

教養研究センター所員の研究活動を広く知っていただくため、「教養研究センター選書」を毎年慶應義塾大学出版会より刊行しています。

『産む身体を描く —ドイツ・イギリスの近代産科医と解剖図』  
石原あえか 2012年

『ベースボールを読む』 吉田恭子 2014年

『汎眼想 —もう一つの生活、もう一つの文明へ』  
熊倉敬聡 2012年

『ダンテ「神曲」における数的構成』 藤谷道夫 2016年

『ペルーの和食 —やわらかな多文化主義』  
柳田利夫 2017年

『感情資本主義に生まれて —感情と身体の新たな地平を模索する』  
岡原正幸 2013年



ロシア歌物語ひろい読み  
—英雄叙事詩、歴史歌謡、道化歌  
熊野谷葉子 2017年



ジョン・ラスキンの労働者教育  
—「見る力」の美学  
横山千晶 2018年



「修身論」の「天」  
—阿部泰胤の翻訳に隠された真相  
ミヤン・マルティン、アルベルト 2019年



理性という狂気  
—G・バタイユから現代世界の倫理へ  
石川学 2020年



コミュニティと芸術  
—パンデミック時代に考える創造力  
横山千晶 2021年

## 〈選書刊行記念企画〉「著書と読む教養研究センター選書」

「著書と読む教養研究センター選書」は「教養研究センター選書」をより広く知ってもらうことを目的とした企画です。2020年度に第1回、2021年度に第2回が行われました。

第2回 コミュニティと芸術 パンデミック時代に考える創造力(横山千晶) (2022年1月14日開催)



第2回の様子

## ● 書籍

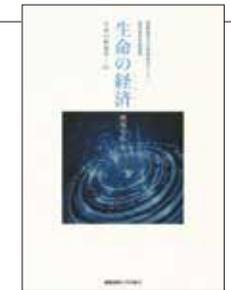
「生命の教養学」の授業をまとめた「生命の教養学」シリーズの他、教養研究センター監修の書籍も随時刊行しています。



「感染る  
生命の教養学14」  
赤江雄一・高橋直也 編 2019年



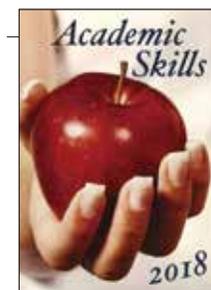
「組織としての生命  
生命の教養学15」  
荒金直人 編 2019年



「生命の経済  
生命の教養学16」  
西尾宇広 編 2020年

## ● 学生論文集

「アカデミック・スキルズ」で執筆された学生論文は、2005年以降毎年、学生自身で編集し一冊の本にまとめられ、「アカデミック・スキルズ学生論文集」として刊行しています。



2018年度



2019年度



2020年度

# アカデミック・スキルズ

## — 10分講義ビデオ —

教養研究センター設置科目の「アカデミック・スキルズ」は「アカスキ」の愛称で親しまれるセンターの看板授業です。自分で問題を発見し・調べ・発信する力を少人数形式で実践的に習得します。このアカスキのエッセンスを誰でも学べるよう、教員による講義をそれぞれ10分の動画に収録し、公開しています。ぜひ、レポートや卒業論文執筆の参考にしてください。



<https://lib-arts.hc.keio.ac.jp/education/culture/academic.php#movies>



片山杜秀(法学部教授)



坂本光(文学部教授)



高山緑(理工学部教授)



原大地(商学部教授)

### テーマ例

研究とは何か?

小菅隼人(理工学部教授)

剽窃(ひょうせつ)について

池田真弓(理工学部准教授)

言葉は身体表現  
—英語という言語を捉えなおす—

横山千晶(法学部教授)

文献を読む

片山杜秀(法学部教授)

読書術

坂本光(文学部教授)

ドイツ語を知り、日本語を知る  
—大学生の語学—

杉山有紀子(理工学部専任講師)

翻訳について

高橋宣也(文学部教授)

君も哲学してみないか  
—哲学的思考法—

斎藤慶典(文学部教授)

教養の語学  
—フランス語—

原大地(商学部教授)

レポートの問いの立て方

鈴木亮子(経済学部教授)

調査的面接法の基礎  
—質的手法への誘い—

高山緑(理工学部教授)

中国語  
—発音の攻略—

高橋幸吉(商学部准教授)

効率的に情報を探すには

竹田咲子(日吉メディアセンター)

Persuasive English Presentations:  
Three Is the Magic Number

アダム・コミサロフ(文学部教授)

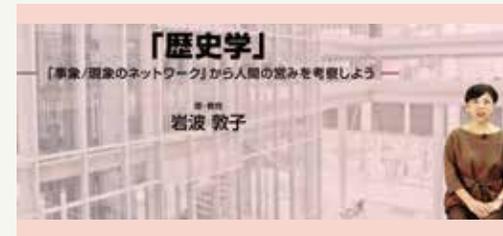
図書館資料と著作権

今井星香(日吉メディアセンター)

所属・職位は2021年3月現在

# NEW

2021年度も「アカデミック・スキルズ」10分講義ビデオが新たに追加されます。教養研究センターのウェブサイトよりご確認ください。



岩波敦子(理工学部教授)



荒木文果(理工学部専任講師)



石井明(経済学部教授)



津田真弓(経済学部教授)



アルベルト・ミヤンマルティン(経済学部准教授)



中谷彩一郎(文学部教授)

所属・職位は2022年1月現在 ※タイトルは変更となる可能性があります。

## Guidance

# 2022年度教養研究センター設置科目ガイダンス

(オンデマンド配信・要keio.jp認証)

<https://keio.box.com/v/lib-artsguidance2022>

配信期間 2022年4月1日(金)~6日(水)

教養研究センターの設置科目、履修申告の手続き方法や幅広い活動について紹介します。履修希望者は必ずご覧ください。(要keio.jp認証)

※keio.jp以外のGoogleアカウントにログインしているとアクセスできません。一度全てのアカウントからログアウトし、ブラウザを落としてから再度keio.jpにログインし直してください。

